

中学校第2学年 国語科学習指導案

1 単元名 説得力のある依頼状を書こう「職場体験をさせてください」

- 教材名 ① 相手を説得する手紙文（メール）の例（『レインツリーの国』（新潮社）有川浩より）
② 依頼状モデル
③ 職場体験学習「事業所からのアンケートのまとめ」
④ 自作の依頼状

2 単元とその指導について

(1) 生徒観

一般的な傾向として、生徒は相手の立場を想像したり、相手を思いやって行動したりといったことが得意ではない。したがって、想像力を養うことは、大切な教育目標のひとつである。想像力を養うことを目標の1つとして掲げている国語科として、1学期の授業では、小説教材「雨の日と青い鳥」を、主人公を妹の育海から兄の豊海にかえるリライトの活動を行った。また、2学期には「盆土産」を読んで、新しく挿入する場面を創作して書く活動を行った。こういった一連の言語活動で、相手の立場になって考える学習に取り組んだ生徒は、想像力が養われつつあると考えられる。しかし、本単元は、実際に職場体験学習を控えている現実をふまえて、職場体験を受け入れる事業所側の立場を鑑みつつも、無理なお願いを聞き入れていただく依頼状を書く学習である。普段使い慣れない敬語表現を適切に用いながら、相手を説得しなければならない。手紙という表現形式にも不慣れである生徒にとっては、難度の高い学習課題になると考えられる。

また、「個人学習→グループでの話し合い学習→学級での学習」という学び合い学習の流れは、1学期から漢字の学習の際に数回、取り組んできたが、十分に機能しない場合があり、本単元でも指導に配慮が必要と考える。

(2) 教材観

社会生活では依頼状を書いて活動する場面が多くある。公的な場面では文書という形式を持って書かれ、私的なものや、相手を説得しなければならない場合などには、手紙の形式を用いて切実な状況や心情を伝えたり、相手の立場を理解した上であえて依頼する理由を明らかにしたりして書かれる。本単元では、依頼状モデル作品や、生徒の手紙例を用いて、相手を説得する文章のポイントを学ばせる。教材にするモデルや手紙例には、ポイントとなる、①相手の立場（企業の責任者で、作業の安全性や働く人の負担に配慮しなければならない。）を考えて書く、②相手の心情（依頼には良い返事をしたいが、断らねばならない事情がある。）を考えて書く、③相手との親密度（面識のない相手。目上の人。）を考えて書く、④依頼の目的や内容（職場体験をさせていただき、仕事の厳しさを知り、将来の職業選択のための貴重な経験としたい。）を明らかにして書く、⑤相手に行動を促したり決意させたりするための説得力のある表現法を用いる、等が学び取れるようなものを用意する。

(3) 指導観

相手を説得する文章を書くためにはどのような工夫が必要かということについて考えさせるために、小説『レインツリーの国』から1組の男女のメールのやり取りを読ませる。次に、依頼状モデルを比べ読みさせ、共通点と相違点を指摘させる。共通点には、相手を説得するための文章のポイントが浮かび上がり、相違点には、相手との親密度の違いや、依頼の理由や内容の違いなど、実際に自分たちが取り組む学習課題を考える手掛かりとなるものが浮かび上がるようにしたい。

また、個人で比べ読みした後は、グループで意見を出し合い、それを学級の中で発表し合っ

ポイントをまとめあげるようにする。学び合い学習での指導の重点は、「晴」（公の場）の言葉で話すことと、評価をすることである。自分たちの学び合い学習がどうであったかを振り返らせ、学び合い学習についての意識を向上させることを目指している。

書くことの指導のポイントは教材観に挙げた5つ（①相手の立場を考えて書く。②相手の心情を考えて書く。③相手との親密度を考えて書く。④依頼の内容と理由を明らかにして書く。⑤相手に行動を促したり決意させたりするための説得力のある表現法を用いる。）とし、書いた手紙をお互いに読み合っってアドバイスをし合う活動も取り入れる。【B 書くこと（1）指導事項イ、ウ、オ】

(4) 言語活動について

ア 社会生活に必要な手紙を書くこと

(ア) 職場体験学習を受け入れてもらうために依頼状を書く活動。

(イ) 職場体験学習の受け入れを断られた業者に対し、なんとか受け入れを了承していただくようお願いする手紙を書く活動を通して、説得力のある文章の書き方を学ばせるのがねらいである。

イ グループでの話し合い活動や発表

ウ 比べ読み

3 単元の指導目標

- 依頼状を書く相手の立場や心情を考えて、内容を取捨選択し、説得力のある文章を書けるようにする。
- 依頼状を書く相手と自分との親密度を考えて、適切な表現方法を用いた文章を書けるようにする。

4 単元の評価規準

国語への 関心・意欲・態度	ア 自分の願いを聞き入れてもらうために依頼状を書こうとしている。 【B 書くこと イ】
書く能力	イ 相手の立場や心情を考えて、依頼する目的や内容を明確に書いている。 【B 書くこと イ、ウ】 ウ 書いた依頼状を互いに読み合い、より良いものにするためのアドバイスをしている。 【B 書くこと オ】
伝統的な言語文化 と国語の特質に関 する事項	エ 相手との親密度を考えて依頼状の表現形式や敬語表現などを適切に用いている。 【伝統的な言語文化と国語の特質に関する事項（1） イ（ア）（オ）】

5 単元計画（全4時間 本時2／4）

時	主な学習活動	教師の指導・支援	評価とその方法
1	○教材1を読んで相手を説得する文章の工夫を考える。	○文章に即して具体的な工夫をできるだけたくさん考え出させる。	ア 教材1を読んで工夫を見付けようとしている。 【観察・ワークシート】

2 (本時)	○教材1と教材2を読み比べさせ、説得力のある手紙の書き方のポイントをまとめる。	○教材1と教材2を比べ読みし、共通点を考えることで説得力のある手紙の書き方のポイントをまとめる。また、相違点を考えることで、依頼の内容や、相手との親密度の違いで書き方が変わることを学ばせる	イ 教材1と教材2を比べ読みし、共通点と相違点を考えている。 【観察】 【ワークシート】
3	○教材3を読み、具体的に場を設定し、自分で手紙を書く。	○教材3「事業所からのアンケートのまとめ」を読ませ、具体的な設定をさせる。手紙の形式にそったワークシートを使う。	イ 教材3を読んで具体的な場面を想定し、手紙を書こうとしている。 【観察】
4	○手紙を読み合い、アドバイスをし合う。	○手紙の良いところを評価し、さらによくするためのアドバイスをするように指示する。	イ 書き方のポイントを押さえて手紙を書いている。 【生徒作品】

6 本時の指導

(1) 本時の指導目標

比べ読みをさせ、説得力のある手紙の書き方のポイントを見付けさせる。

(2) 本時の展開 (3/4)

過程	学習活動	教師の指導・支援 *評価
導 入	1 前時の学習を振り返り、本時の活動の見通しをもつ。 メール（教材1）と依頼状（教材2）を読み比べて、説得力のある手紙の書き方のポイントを考える。	○導入における前時の学習の振り返りを生徒の司会で行わせる。
展 開	2 教材2を読んで、教材1と比べ、共通点と相違点を考え、ワークシートに書き出す。 [本文ワークシート1]	○相手の気持ち（心情）や立場を思いやりつつ、自分の必死な思いを伝えていること、相手との関係（親密度）を考えて、言葉遣いを工夫していることなど、文章に即して考えさせる。 *共通点と相違点をワークシートに書き込んでいる。 【観察・ワークシート】
	3 グループで共通点と相違点を出し合い、まとめる。	○なるべくたくさんの意見を出し合い、グループ内でまとめられることはまとめさせる。
	4 学級で共通点を出し合い、「説得力のある手紙の書き方のポイント」をまとめる。	○たくさん出された意見を5つにまとめさせる。 *ポイントを5つに絞っている。 【ワークシート】

	<p>5 学級で相違点を出し合い，依頼状を出す相手の立場や，依頼の内容，相手との親密度などの違いによって，書き方が変わってくることに気付く。</p>	<p>○依頼する相手が，親密な間柄の場合（教材1）と，社会的立場のある目上の人の場合（教材2）では言葉遣いが全く違う。また，心情面の配慮も異なる。相手や目的に応じた書き方をしなければならないことを学ばせる。</p>
<p>終末</p>	<p>6 学んだことを生かして依頼状を実際に書いてみるという課題をもつ。</p>	<p>○「説得力のある手紙の書き方のポイント」を押さえて書けば，依頼状が書けることを示唆し，次時の活動について意欲をもたせる。</p>